

部落差別（同和問題）への理解を深めよう

（人権課題）
部落差別（同和問題）

指導事例の説明

スマートフォンの普及により情報の拡散力が増大し、インターネット上の人権侵害が深刻化しています。部落差別（同和問題）においても、インターネット上において特定の地域が同和地区であると指摘する情報の流布により、差別や偏見、誹謗中傷等に発展し、人権侵害に当たる事案が散見されています。このような差別や偏見をなくすために、生徒一人一人が部落差別（同和問題）について正しく理解することが大切です。

本事例は、学習教材「人権の窓」（デジタル版）を活用しながら部落差別（同和問題）の歴史的背景や今なお残る心理的差別や偏見について学び、人権が尊重される社会の実現に向け、主体的に行動をしていく態度を育成する内容になっています。

本時の目標

- ・ 部落差別（同和問題）が起きた歴史的過程を知り、差別や偏見のない社会の実現に向けて、主体的に考えることができる。

人権教育の視点

- ・ 部落差別（同和問題）が起きた歴史的過程を知り、差別を受けてきた人々の心情や立場を共感的に理解することができる。（感受性）

生かしたい生徒

- ・ 生徒Aは、困っている人に自分から声を掛けたり、悩んでいる友達に寄り添ったりすることができる。当事者が体験したエピソードについて考える場面で、生徒Aの意見を取り上げて全体で共有し、学級全体での話し合いを深めさせたい。

人権教育の目標を踏まえた次の発達段階につなげるポイント

「学級内で起きた部落差別（同和問題）」及び「インターネットにおける部落差別（同和問題）」の2つのエピソードから、部落差別（同和問題）への共感的理解を深めます。次の発達段階である成人の目標につなげていくために、グループで出された意見について話し合うことをとおして部落差別（同和問題）の解消に向けての考えを深め、生徒一人一人が社会を担う当事者として主体的に人権尊重社会を築くための人権感覚を養います。

展開

このような特性のある児童生徒、いませんか？
【物事に集中できない。自分の意見が言えない】

特別支援教育の視点を踏まえた支援

	学習活動	・指導上の留意点 ◎人権教育上の配慮	資料・準備物
導入	1 「人権の窓」【部落差別（同和問題）を考える】から、部落差別の起こり、歴史的背景を知る。 2 部落差別（同和問題）における心理的差別について知る。 3 学習課題を確認する。 「2つのエピソードをとおして差別解消に向けた具体的な行動を考えよう。」	◎ 4人程度のグループを作り、話しやすい雰囲気づくりを行う。 ・必要に応じて、学習教材「人権の窓」を活用する。 【全国水平社】 【医学の発展に貢献した人々】 【渋染一揆】 ・人権の窓【戦後の取組スライド10】を使い、部落差別（同和問題）の今なお残る心理的差別について、説明する。	・「人権の窓」部落差別（同和問題）編
展開	4 エピソード1から考える。 (1)エピソード1を聞く。 (2)感想を発表する。 5 エピソード2（ワークシートに示されたエピソード）から考える。 (設問1) (1)エピソード2を読む。 (2)問題点を考えて記入する。 (3)グループ内で話し合い、意見を発表する。 (4)他のグループの意見や、それを聞いた感想をまとめる。	◎意図をもって指名する。相手の立場を踏まえた感想を取り上げることで、相手の立場に立ったり、自分のこととして考えさせたりする。（感受性） ◎グループ内の特定の人だけでなく、グループ全員が話し合いに参加できるように声かけを行う。 ・インターネット上で部落差別を受けた当事者の体験をとおり、理不尽な差別に触れる。（結婚が破談になる・就職できないなど） ◎他のグループの多様な見方を尊重して聞き、気付いた点をワークシートにまとめさせる。	・ワークシート（設問1）
ふりかえり	6 人権が尊重された社会を実現するために、差別や偏見をどのように解消していくかについて考える。	・他のグループの生徒の発表を踏まえ、人権が尊重された社会の実現に向けて、今後できることを考える時間を確保する。 ・グループで意見を共有する。 ・エピソード2の後日談を語り、様々な法整備※によって差別解消に向かって社会は動いていることを確認する。	・ワークシート（設問2）

学習の目的、本時のテーマと活動内容を分かりやすく提示しましょう。

まとめ方として
 ・ワークシートへの記入
 ・タブレットへの入力
 ・付箋などの活用など選択肢があってもよいですね。

話し合いのテーマを分かりやすく提示しましょう。

意見を伝えられるように、「賛成」「反対」「その他」など手掛かりになるカードがあると良いですね。

他のグループの意見に対するリアクションカード（いいね、すごい、質問…）などがあると分かりやすいですね。

みんなの意見を、モニターやタブレット、ホワイトボードなどに視覚的に分かりやすく示して共有しましょう。

※H28 部落差別解消の推進に関する法律
R6 情報流通プラットフォーム対処法

いま のこ しん り て き さ べ つ
今もなお残る「心理的差別」

こんにち じつたいてきさべつ おお かいぜん
今日までに「実体的差別」は大きく改善されました。しか
し、ひとびと かんねん いしき せんざい ことば ちじ ぎょうい ひょう
し、人々の観念や意識に潜在し、言葉や文字、行為として表
めん あらわ しん り て き さ べ つ いぜん のこ
面に現れる「心理的差別」が依然として残っています。



いま のこ しん り て き さ べ つ
今もなお残る「心理的差別」

にっぽんこくけんぽう ほう もと ひょうどう こんいん じゆう しょくぎょうせんたく
日本国憲法で「法の下での平等」、「婚姻の自由」、「職業選択
の自由」が保障されているにもかかわらず、どうわちくしゅっしん
あることを理由に、けっこん はんたい じゅうしょくとう
結婚を反対されたり、就職等において不
り あつか う もんだい
利な扱いを受けたりするなどの問題があります。



・エピソード

【エピソード1】学級内で起きた部落差別（同和問題）の例

※授業者が読んで聞かせる。エピソードの内容は適宜変更して良い。

ある学校で、Aさんは大きなトラブルはなく良好な友人関係を築けていたが、周囲から急に距離を置かれるようになった。以前よりも声をかけられることが減り、グループ活動にも誘われなくなった。何か友人たちの嫌がることをしてしまったのかと不安に思ったAさんは、距離を置かれている理由を尋ねた。友人たちからは、「Aさんは被差別部落出身だから関わらないほうがいって親に言われた」「被差別部落は怖いところだと聞いた」「昔からそう言われているから」と言われた。

後日談 ※エピソード1についての感想を学級全体で共有したあと（展開3の最後）に伝える。

学級担任がAさんとその友人らの様子がおかしいことに気付き、聞き取りをした結果、友人らの行為が部落差別（同和問題）であると考え、学級全体で部落差別（同和問題）について話をした。授業の後、友人らは「事実ではない情報や過去の言い伝えを信じてしまい、悪いことだとは思わずにAさんを避ける態度をとってしまった」「親が言っていることが正しいと思い込んでしまった」「Aさんが悪いわけではないのに、避けるような態度をとってしまい悪いことをしてしまった」と、自分たちが無意識に行ってしまった差別に気付くことができ、その後Aさんとの関係は良好になった。

【エピソード2】インターネット上の部落差別（同和問題）の後日談の例

※授業者が読んで聞かせる。エピソードの内容は適宜変更して良い。

Cさんの父親と祖父母は、Cさんから説得されて「部落差別（同和問題）を知ろう」という研修会に参加した。研修会では、部落差別の歴史的過程や、今なお残る心理的差別、そして「部落差別解消法」について知った。そこで初めて、Cさんの父親と祖父母は、Bさんに対して人権侵害をしてしまっていたことに気が付いた。改めてBさんに会い、被差別部落出身かどうかではなくBさんの人柄に目を向けて接することができ、その結果Bさんとの結婚を心から祝福した。

年 組 番 氏名 ()

【エピソード2】

BさんはCさんと婚約していた。ある日、インターネット上にBさんが住んでいる地域は被差別部落（同和地区）であるという書き込みが行われた。自分が被差別部落出身だと伝えていなかったBさんは、急いでCさんにこのことを伝えた。Cさんは、「それは関係ない。Bさんと結婚したい。」と理解を示した。Cさんの母親と妹は、「Bさんがどこの出身であるかは関係ない」として結婚に賛成しているものの、この書き込みを見たCさんの父親と祖父母は結婚に反対している。

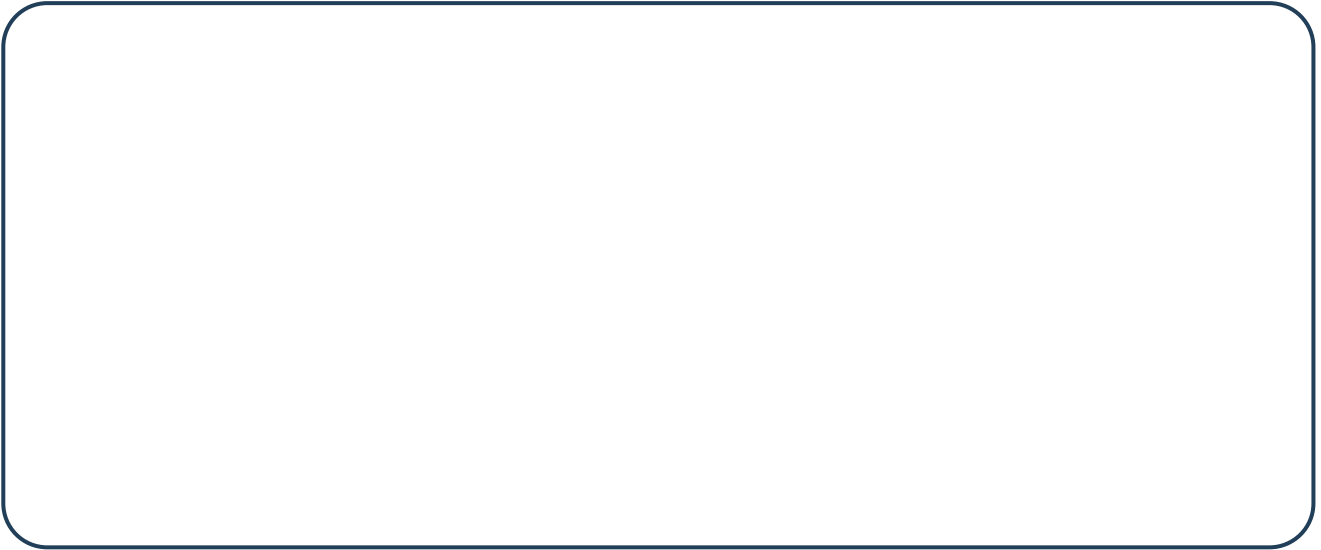
- 設問1 インターネット上における部落差別（同和問題）についてのエピソードを読んで、次の3人の立場に立って考え、それぞれの思いや問題点を考えてまとめてみましょう。

Bさん

Cさん

Cさんの父親

- 設問2 他のグループの意見を聞いて、考えたこと・感じたことをまとめてみましょう。
(部落差別(同和問題)をなくすために努力していきたいことや、インターネット上で人権侵害をしないために気を付けていきたいこと)



○まとめ

人権が尊重された社会の実現に向け、あなたはどのように行動していくか、考えをまとめてみましょう。

